

## 2 4時間定期巡回・随時対応サービス事業のまとめ

### 1. 24時間定期巡回・随時対応サービスの利用状況について

#### (1) モデル事業の利用者像

- 要介護度の重度化にしたがい、ケアの回数が増加する傾向がある。
- 訪問介護や通所介護等の介護保険サービスとモデル事業を組み合わせているが、必要なケアの全てはカバーできず、その不足分は家族がケアを行っている。
- 家族が何らかの原因によりケアが行えない場合は、在宅生活の継続が困難になる。

#### (2) サービスの提供状況

##### 【定期訪問】

- 移動時間に、利用者宅から利用者宅までの純粋な移動時間のほかに、待機時間が発生する。
- 定期訪問時のサービス提供の時間が実際には予定より短時間で終了する場合や長い時間を要するといったことも発生する。
- 事前の訪問計画に基づき提供するが、利用者の心身の状況に応じて、提供時間の長さやタイミングを変更しながら、サービスを提供できる。

##### 【随時対応】

- 利用者からのコールに対して、オペレーターの利用者の心身状態を踏まえた具体的な助言や会話により、コール回数は減少傾向となる。
- 24時間体制でコール対応を行うことで、利用者からの安心感を得ることができる。

### 2. サービスの効果

#### (1) 利用者

- 随時対応と定期訪問で精神的安定が図れた。
- 正しく内服できるようになった。
- 定期のオムツ交換で、清潔が保たれるとともに、腰上げ動作等のベッド上での軽い運動が行え、身体機能の低下予防が図れた。
- 排泄パターンが安定した。

#### (2) 家族

- 家族の家事・介護負担が軽減された。

### (3) 連携体制

- 訪問介護と情報提供することで服薬状況の把握と確認ができた。
- 介護保険の訪問介護と訪問看護と連携し、ケア方法について統一を図り、安全なサービスを提供することができた。
- 急変時に対応するため、訪問看護と利用者の身体状況把握ための情報を共有しながら、サービスの提供を行った。

## 3. サービスの運営について

### (1) 従業者

- 夜勤は常勤を中心に行うことが想定されるため、常勤雇用率が高まる。

### (2) 経費

- 運営開始時は厳しいものがあるが、国の助成がある。従業者に看護師や介護福祉士等資格が要求されることもあり、人件費割合が高い。

### (3) 通信端末

- 身体状況が変わる病状を持っている方にはテレビ電話が有効である。

## 4. アンケート結果について

○1回当たり20分程度の訪問時間について、回答者8人中6人の利用者（家族）が「普通」と答えていることから、訪問介護計画が適切に立案され、サービスが提供されたと思われる。

○月額2,000円の利用料金について、回答者8人中5人の利用者（家族）が「安い」と答えている。要介護度の重度化にしたがい、ケアの回数が増加する傾向があることから、このことを予測した料金設定が必要だったと思われる。

○サービスを継続して利用する意向について、回答者8人中5人の利用者（家族）が「希望する」と答えていることから、24年度に地域密着型サービスとして新設される定期巡回・随時対応型訪問介護看護を、速やかに実施できるよう、第5期介護保険事業計画に基づき、準備をすすめる。